

スーパーマーケットの「地域貢献」を追究する

～小学3年「店ではたく人」～

「社会にフォーカス」のコーナーで紹介したスーパーマーケットの「地域貢献」について、子どもたちに追究させる実践例を紹介します。

「私的」から「公的」へと視点を切り替える事象提示と発問

【事象提示】 スーパーマーケットの「リサイクルコーナーの写真」



スーパーマーケットの学習で、主に「商品を売るための工夫」について学んできた子どもたちに対し、スーパーマーケットの店頭に設置されているリサイクルコーナーの写真（左）を提示して、次のことを問い合わせ、考えさせます。

【発問】 リサイクルコーナーを置いているのは、スーパーマーケットの「売るための工夫」ですか？

これまで「売るための工夫」という視点からスーパーマーケットで働く人々の工夫や努力について追究してきた子どもたちは、次のような考えをもつことが予想されます。



「売るための工夫」だと思います。なぜかというと、食品トレー や牛乳パックを持ってきたついでにお店で買い物してもらえるようにしていると思うからです。

回収した物を引き取ってもらったらお店にお金が入り、その分品物を安くして、お客様に来てもうようにしているのではないかと思います。



問い合わせに対する考えを子どもたちに発表させた後に、以下の店長さんの話を聞かせます。

【店長さんの話】 お客様から回収した牛乳パックや食品トレーは、すべてリサイクル業者にお金を支払って引き取ってもらい再資源化しています。

この事実を知った子どもたちの多くが、「えっ、お金を支払って？！」と驚きの反応を示すことでしょう。

そこで、さらに次のことを問います。

【発問】 スーパーマーケットが、お金を支払ってまでもリサイクルコーナーを置いているのはなぜでしょう？



環境を守ることをすごく大切にしているからだと思います。



お店のことだけでなく、世の中のことを考えているからだと思います。

問い合わせに対する考え方を子どもたちに発表させた後に、以下の店長さんの話を聞かせます。

【店長さんの話】 わたしたちの店では、食品トレーが多く商品に使用されているので、お客様のご家庭から使用済みの食品トレーがたくさんごみとして出てしまします。ですから、その分少しでも社会に役立つことをしたいと考え、環境を守るためにリサイクルコーナーを置いています。



世の中のためにお金を払ってまでリサイクルをしているなんてすごい！



そして、スーパーの「地域貢献」という言葉の意味について、教科書を用いて教えます。

地いきこうけん

品物を売るだけではなく、地いきの人々に役に立つようにすることです。地いきこうけんをすることで、店も地いきの人々に大切にされます。

(『新しい社会 3・4 上』東京書籍)



この後、リサイクル以外のスーパーの「地域貢献」の取組を調べる学習へと追究活動を展開していきます。



「売るための工夫」から「地域貢献」へ、つまり「私的な視点」から「公的な視点」へと、見方や考え方を一気に切り替える事象提示と発問により、スーパーに対する子どもたちの既存のイメージを揺さぶることができます。これにより、スーパーが利益だけを求めているのではないということを追究させるきっかけをつくることができます。